



短期海外研修（香港）報告書

Study Abroad Program in Hong Kong

2016年8月4日~9月4日



目次

巻頭言	2
研修日程表	3
参加者プロフィール	4
香港基本情報	7
香港中文大学紹介	9
中国語プログラム	11
インターン型教育プログラム	14
香港・深圳・マカオ観光	20
個別報告	28
編集後記	43

短期海外研修とグローバル人材

国際教育センター 教授 太田 浩

グローバル化と知識社会の進展を受け、産官学を挙げてグローバル人材の養成に向けた取組みが行われている。そもそも、グローバル人材とは何か？厚生労働省雇用政策研究会(2012)が多くの企業に対してヒアリングを行った結果として、「未知の世界、時に非常に厳しい環境に、『面白そうだ』『やってみたい』という気持ちで、積極的に飛び込んでいく前向きな気持ち、姿勢・行動力を持っていること。そして、入社後に一皮、二皮剥けるため、『最後までやり抜く』『タフネスさ』があること。しっかりと自分の頭で考え、課題を解決しようとする」とまとめている。これをグローバル人材のあり方と解釈すれば、「国境をまたぐ能力」を身につけ、「アウェーで実力を発揮できる自信」を獲得することを標榜する本学の短期海外研修は、それに向けての“第一歩”としてふさわしいプログラムと言える。

本報告書を見ると、同じプログラムに参加していても、学生たちの目標、経験、成果は一樣ではないことがよくわかる。中国語を学び、英語も使ってフィールドワークにも取り組んだ意義深い4週間の活動が垣間見られる。そして、研修を通して経験したこと、学んだことを本報告書の作成を通して内省化することにより、一人一人が文化の違いを超えた交流と協働の礎を築くと共に、次へのステップを自覚したに違いない。本報告書の完成は、参加学生にとって「終わり」ではなく、世界で学び、グローバルに活躍するための「始まり」であることを願わずにはいられない。また、本報告書が次に続く学生の一助となることを切に期待するとともに、関係者の方々すべてに深く感謝の意を表したい。

短期海外研修(香港)に寄せて

経済学研究科・国際教育センター兼任 講師 奇 春花

初回となった香港での短期海外研修には、9人の学生が参加しました。最初の3週間は香港中文大学で中国語を学び、最後の1週間は香港中文大学の学生と共同で企業からの課題に取り組むフィールドワーク(ビジネス研修)に参加しました。初めての試みで、多少不安もありましたが、慣れ親しんだ日本とは異なった環境の中でも学生たちが必死に頑張っている姿をみて、このプログラムのやりがいを感じました。

特に、最後の1週間のインパクトは学生にとって非常に強いものがあったようです。香港中文大学の学生と共に市場調査を行ったり、英語でディスカッションをしたり、プレゼンテーションの準備に取り組んだりすることで、文化的背景の違う人との共同作業の楽しさと難しさを同時に体験でき、文化の差を乗り越えるための自分なりのコツが少しはつかめたのではないかと思います。このプログラムが、参加者学生たちにとって、グローバル人材として活躍する為の大切な一歩になることを期待します。

最後に、香港中文大学の皆様、地球の歩き方 T&E の堀部様、香港で応援して下さった日系企業の皆様、この研修のために尽力して下さった方々に心より感謝を申し上げます。

《研修プログラムで経験・学べること》

1. 香港中文大学の International Summer School に参加し、3 週間中国語研修を受講
2. 香港中文大学とのインターン型ビジネス研修プログラムで、現地学生と共に企業プロジェクトに臨む
3. 現地学生と共に英語・中国語を駆使し、異文化コミュニケーション能力を磨き、Team Building や現地ビジネスのリアルな実態に触れ、現地の視野や感覚を実体験から学ぶ

香港中文大学 International Summer School スケジュール

香港中文大学 語学研修 (22 日間)

2016 年
8 月 4 日(木)～8 月 27 日(土)

日付	都市名	便名	概要	滞在	食事
08/04(木)	成田 香港	NH809	08:00 成田空港 第1ターミナル南ウィング集合 10:05 空路 香港へ 13:45 到着後 学生寮にチェックイン	学生寮	
08/05(金)	香港		[夕方] 歓迎夕食会	学生寮	夕
08/06(土)	香港		[終日] 香港、マカオ、深圳を巡る日帰り見学旅行(予定)	学生寮	
08/07(日)	香港		[終日] 休講	学生寮	
08/08(月) ～ 08/12(金)	香港		[終日] 香港中文大学 語学プログラム開講 (CUHK International Summer School)	学生寮	
08/13(土)	香港		[終日] 香港、マカオ、深圳を巡る日帰り見学旅行(予定)	学生寮	
08/14(日)	香港		[終日] 休講	学生寮	
08/15(月) ～ 08/19(金)	香港		[終日] 香港中文大学 語学プログラム (CUHK International Summer School)	学生寮	
08/20(土)	香港		[終日] 香港、マカオ、深圳を巡る日帰り見学旅行(予定)	学生寮	
08/21(日)	香港		[終日] 休講	学生寮	
08/22(月) ～ 08/25(木)	香港		[終日] 香港中文大学 語学プログラム (CUHK International Summer School)	学生寮	
08/26(金)	香港		[夕方] Farewell Dinner	学生寮	夕
08/27(土)	香港		[終日] 荷造り・清掃など退寮準備	学生寮	

インターン型 ビジネス研修 スケジュール

香港中文大学 X 一橋大学 オリジナル インターン型 ビジネス研修 (8 日間)

2016 年
8 月 28 日(日)～9 月 4 日(日)

日付	都市名	便名	概要	滞在	食事
08/28(日)	香港		[終日] CUHK 寮からホテルへ移動(移動後、自由行動)	ホテル	
08/29(月)	香港		[午前中] オリエンテーション 14:00 一橋学生から CUHK 学生へのプレゼンテーション 14:30 プログラムに関する説明 15:00 フィールドワークの戦略会議と翌日スケジュール策定	ホテル	
08/30(火)	香港		[終日] 香港島(予定)にて香港消費者向けに市場調査を CUHK 学生と共同で実施	ホテル	
08/31(水)	香港		[終日] 九龍半島(予定)にて香港消費者向けに市場調査を CUHK 学生と共同で実施	ホテル	
09/01(木)	香港		[終日] CUHK キャンパス内(予定)にて主に香港学生向けに SNS を通じ市場調査を CUHK 学生と共同で実施し、プレゼン資料作成	ホテル	
09/02(金)	香港		[午前中] CUHK にてプレゼン準備を実施 15:00 尖沙咀に移動 16:00 成果報告会 19:00 懇親会	ホテル	夕
09/03(土)	香港		[終日] CUHK 学生との交流	ホテル	
09/04(日)	香港 成田	NH810	出発まで自由行動 専用車にて空港へ移動 14:55 空路 成田へ 20:15 到着後 現地解散		

【インターン型ビジネス研修】今回 2016 年夏の課題(テーマ)

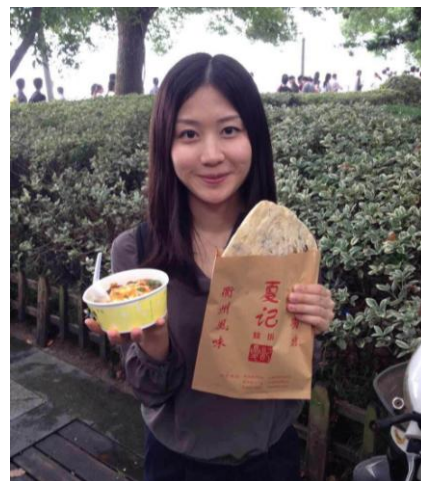
- (総合商社・食品部門) 香港市場における日本食品 / 食材の販売額を 2 倍にする施策を検討する
 (総合商社グループ・繊維事業会社) 香港市場でアウトドア商品の売上を 2 倍にする施策を検討する
 (中国最大手電子商取引会社) 英国の EU 離脱により日本の中小企業、香港の企業が受ける影響を考察し、双方にとって可能性あるビジネスチャンス、商材について検討する

参加者プロフィール

吉田 亜未(商学部、4年)

文責：萩原

われらがマドンナ、あみさん。誰もが羨む美貌に、某外資系投資銀行からの内定も勝ち取ったまさに才色兼備のパーフェクトレディ。シンガポールに5年間在住していた経歴をもつが、彼女の英語が聞けることはまれ。お腹が空いていない時は1日1食も普通だという驚異の食生活の持ち主。普段はクールだがときどき見せる無邪気な笑顔に心を打たれない者はいない。



石毛 奈津美(法学部、3年)

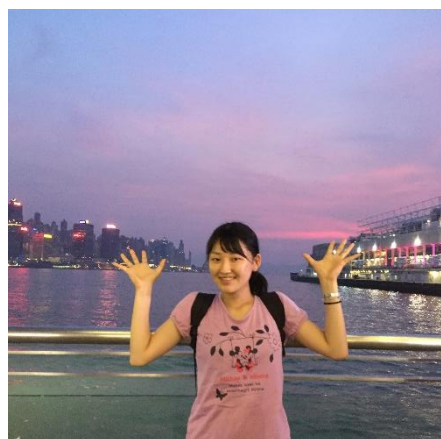
文責：徳橋

普段はゆったり生活をしているが、それはエネルギーをセーブして、いざという時に俊敏性を発揮するためだと言う。得意技は音もなく消えて、音もなく現れる。カッコよく言うなら神出鬼没。本当によく寝るらしい。マイペースという言葉で片付けたくないが、マイペース。誰に対しても深い愛を持っている。

松井 咲樹(商学部、2年)

文責：石毛

事務連絡や様々な予定の調整など皆をまとめつつ、自分の勉強や課題にもいつも真剣に取り組む頼れるサブリーダー。バドミントンをやっていて日課はジムでの運動というアクティブさ！意外と部屋では荷物を広げまくっているとか…



参加者プロフィール

神谷 有紀(商学部、2年)

文責：吉田

香港研修のリーダーを務めたかみゆき。研修のスケジュール管理から研修メンバーの意欲喚起まで、素晴らしいリーダーシップを発揮して、皆をまとめた。しかし、香港に到着した初日に携帯を海に落とすというお茶目な一面も持ち合わせる。



萩原 理沙(法学部、2年)

文責：松井

みんなのお母さん、はぎはぎ。一人暮らしで培った生活力を香港でも存分に発揮し、きちんと片付けられた部屋とママな計画力を見せつけた。いつもの優しい物腰で関西人というから驚きだが、たまに吐く毒舌がそれまた痛烈で面白い。そんなはぎはぎの大敵は日差しと火鍋(香港の鍋料理)。

伊東 美帆(社会学部、2年)

文責：神谷

初めての海外にもかかわらず、きれいな中国語の発音と自然な振る舞いで終始それを感じさせなかった。

食は細いが、愛しい香港グルメを食べるためならば努力を惜しまない一面を有する。



参加者プロフィール

齊藤 歩(商学部、2年)

文責：伊東

どこかほんやりとした可愛さを持ち合わせるマイペース少女。彼女の中国語を読み上げるスピードの速さには毎回驚かされた。「あゆみ」の中国語読みである「ぶー」はあだ名として定着しつつある。



久本 麻央(法学部、1年)

文責：齊藤

香港研修メンバーの末っ子キャラ麻央ちゃん。アメリカで培った英語力を活かして世界各国誰でもすぐに友達になる超社交的な性格。食べ物に関しても分け隔てなく接し、雑草のようなサラダから屋台料理の鳩の頭まで美味しく食べる。休日には1人ローカル市場でフルーツを買い込み、南国っぽい食物で冷蔵庫をいっぱいにする。

徳橋 和紀(法学部、1年)

文責：久本

この女の楽園の研修にただ1人、男として参加した勇者。最年少メンバーであるにもかかわらず、説得力のある意見を毎時述べ、なおかつ気配りが上手な強者である。某他大学の生徒だと間違われるほど他者に溶け込むことができ、その驚異的なコミュニケーション力を持つ彼に敵う者はいない。そんな完璧な彼を負かすには、ご飯にパクチーを一房ちょこんとのせるだけで効果てきめん☆



香港基本情報

文責：吉田亜未

- ◆ 面積
1,103 平方キロメートル(東京都の約半分！)
- ◆ 人口
約 729 万人(2015 年 7 月時点)
- ◆ 民族
漢民族(約 95%)
- ◆ 言語
広東語、英語、中国語が主ですが、ローカルな地域では広東語しか通じませんでした。町中で英語を使う機会の少なさは、香港研修において最も驚いた点の一つです。
- ◆ 内政
1997 年 7 月に香港が英国から中国に返還されて以来、「一国二制度」が実施されています。中華人民共和国を中央政府としますが、社会主義制度と政策を実行せず、従来の資本主義制度を維持しています。
- ◆ 主要産業
金融業、不動産業、観光業、貿易業
- ◆ 交通
チャージ式 IC 乗車券カード「オクトパスカード(八達通卡)」で、タクシーと赤ミニバスを除くほぼすべての乗り物に乗れます。日本で言う Suica や Pasma のようなものですが、交通カードとしてだけでなく、コンビニやスーパーマーケット等でも利用可能です。最低入金額の 100 ドルとデポジットの 50 ドル、合計 150 ドルを払えば、入手できます。香港に到着した当日に、CUHK の学生がオクトパスカードを作るのを手伝ってくれました。

◆ 食べ物 印象に残った香港フードを3つだけ紹介します。

1. 飲茶：香港では絶品の飲茶を低価格で食べられます！



2. 菠萝包：香港のローカルフードとして親しまれ、朝ご飯としても食べられています。パン生地の上にクッキー生地をかぶせて焼くパンで、日本のメロンパンと少し似ています。間にバターを挟んで食べるのが一般的です。



3. 許留山(Hui Lau Shan)：香港の大人気スイーツチェーン店。数多くの支店があるため、見つけるのは比較的容易です。



などなど、香港には美味しい食べ物が沢山ありました！！

参考サイト：外務省ホームページ・香港基礎データ

香港中文大学紹介

文責：萩原理沙

(1) 概要

中国香港沙田区(新界)に本部を置く香港の公立大学。1963年に設立されました。英語名はThe Chinese University of Hong Kong で、略称はCUHK。名前の「中文」は中国語の意味だけでなく、「中華文化」も意味します。英語で教える香港大学に対抗するため、新亜書院、崇基学院(クリスチャン・カレッジ)、聯合書院が合同で創設されました。学生は、各書院と学院に所属する英国式をとっており、米国式の所属形態である香港大学など他の香港公立大学と異なる特異なシステムを維持しています。また香港中文大学のビジネススクールはアジア最古の歴史を誇るMBAとして世界的に名高く、数多くの財界人を輩出してきました。香港の三大有名大学の一つとして、QS世界大学ランキング(2013-2014)では、世界第39位、アジア第7位にランクインしており、過去にノーベル物理学賞受賞者を2人、経済学賞受賞者を2人輩出しています。



(2) 学部・学生

文学院(学部)、工商管理学院、教育学院、工程学院(工学部)、医学院、法学院、理学院及び社会科学学院の8学部、61学系(専攻科)を有します。1990年からは日本研究学科が文学院に設立され、約500名の学生が日本語や日本の文化、歴史、社会、言語学などを学んでいます。

(3) キャンパス・施設

香港特別行政区の新界地区東部、沙田・馬料水の丘陵地帯に広大なキャンパスを有し、キャンパスの広さは香港大学の約2倍とされています。最寄り駅は香港鉄路東鉄線(MTR)の「大学駅」です。多くの建物が山の上にあるため、香港の大学では唯一構内でスクールバス(校巴)を運行しています。キャンパス内には9つの寮(書院)、33の食堂、図書館、プール、スーパーマーケット、保健センターなど様々な施設があり、寮に住む学生が大学内だけで生活できる環境が整っています。



スクールバス



食堂のごはん

(4) 寮での生活



私たちが泊まった寮は和聲書院 (Lee Woo Sing College) と呼ばれる12階建ての建物です。大学駅からはバスで20分ほどかけて登った丘の上に位置します。建物内は北棟と南棟に分かれており、それぞれフロアごとに男子寮、女子寮があります。2人部屋、3人部屋の2種類がありますが、一橋生が泊まったのは2人部屋でした。部屋は大学到着時に学生のスタッフによって指定されます。日本の大学から来た学生の中には、他国の学生と部屋を共にする人もいたようですが、私たちは全員一橋生どうして部屋を割り当てられました。トイレ・シャワールーム・洗面所は各フロア共有で、それぞれ3つしかなく、夜はシャワー待ちの列ができることも少なくありませんでした。トイレの個室には備え付けのトイレットペーパーがないため、各自で毎回持ち込んで使わなければなりません。部屋には勉強机、ベッド、クローゼットが2つずつ、小さな冷蔵庫が1つと、エアコンが備え付けられています。不思議なことにゴミ箱がなかったので、私物のレジ袋で代用していました。窓からの眺めはととても良く、大学の敷地、遠くの市街地まで広く見渡すことができます。キッチンも各フロアに1つずつあり、大学内のスーパーで買ってきかたものを調理して食べている学生も何人かいました。洗濯は、棟の中にある洗濯機・脱水機・乾燥機を利用することができます。1回の洗濯にかかる料金は洗濯機・乾燥機各5HK\$。洗濯室の横にアイロン台・物干しスペースも備え付けられています。そのほか棟の中には食堂、無料で利用できるジム、卓球台、おいしいスイーツを売っているカフェなど、学生が楽しめる様々な施設があります。



部屋から見える夜景

中国語プログラム

学普通话很高兴～楽しい中国語～

文責：神谷有紀

私の中文大学での一日を紹介しよう。

午前の授業は9時半から始まる。しかし寮から徒歩30分の距離にある建物で授業があるため少し余裕を持って教室に向う。授業開始までの間、先生に中国語に関する質問をしたりクラスメイトと中国語で話したりする。一クラスの人数は13人と少人数で、性別は女子、国籍は日本人が多い。前回の授業のおさらいをした後、新しい単語や文法表現を習う。一クラスごとに先生が二人おり、一日ごとに交互に授業を担当する。私たちのクラスでは、張先生は単語や文法を中心に、孫先生は会話やスピーチを中心にして学習が進められた。そのため二日で一章が終わるペースで授業は行われる。ただし内容は教科書以外の内容も含まれ、スピーキングを重視しているため充実した内容となっている。新しい構文を習ったときはきれいにまとまったプリントがもらえるため、エッセイを書くとき以外はノートを書く必要はあまりない。先生が一グループずつ回って用法や発音に誤りがないか確認していくため、恐れずに新しい表現にも挑戦してみる。会話の練習後はたいてい一グループごとにその様子を見せ合う。会話する内容は、「自分の母国に旅行を計画している友達に旅行中にぜひすべきことを伝える」など多岐にわたる。先生が描いた絵を見ながら物語を作って説明したり、音楽に合わせてゲームをしたりもした。どの授業も楽しくなるような工夫がされていて飽きることがない。休憩時間は最初の授業の際に先生と生徒が一緒に決める。12時になると33店ほどある学内の食堂の一つでランチをする。14時半に午前とは異なる建物で午後の授業が始まる。午後の教室には一人一台使用できるパソコンがあり、そのヘッドセットを使ってよりはっきりとクラスメイトの声を聞くことができる。リスニングやスピーキングのテストもここで行う。16時10分に授業が終わり、帰宅後今日の授業のレビューをネット上で行う。このレビューは宿題のようなもので毎回出され、内容はリスニングによる正誤問題や文章題の穴埋め問題などだ。このレビューの他に授業中に単語、リスニングのテスト、スピーチやエッセイなども行うが、必ず事前に先生から連絡がある。授業前に行うプレビューというものもあるが、単語の漢字、ピンインや意味の問い等非常に簡単である上、成績に加味されないので参加しない人が多い。

中国語のクラスは渡航前に受けたテストで振り分けられ、不服があれば到着後再度テストを受けたり、初日の授業の際に他の授業を見学したりして変更することができる。教科書は簡体字と繁体字から選ぶことができるが、北京語は簡体字のためよほどの理由がない限り簡体字の方がいいだろう。先生は皆北京など大陸から来たネイティブである上、語学の教え方が本当に上手い。例えば、一度習った表現は言い方を変えながら何度も授業中に使用したり、新しい単語や表現が出てきてもすぐに英語を使わずに例などを出しながらできる限り中国語で教えてくれたり、少し前に習った表現は毎回意味を確認したり、映像等を利用したり、新出単語を使ったジョークを教えてくれたりと実に多くの工夫が施されている。そして生徒がリラックスした状態で授業に臨めるのは、彼らが常に笑顔を絶やさずに話してしてくれるからである。

このような授業内容に私は大変満足していた。しかし最初の一つ上のレベルを受けようと思っていた。授業を見学した時は文法内容等が日本ですでに習ったものだったため、ついていけるかもしれないと思っていたからだ。しかし、担当教員は中国語以外一切話さない教師で、たとえ話している意味が分かっていてもそれを中国語で伝えることができなければ意味がないとのアドバイスを受けた。それは考えてみれば至極もったもな話で、私がいかに理解していようがその理解内容を自分の言葉に変換して伝えなおす手段がなければ、相手にしてみれば私は何も理解していないのと同じことなのだ。悔しかった私はレベルを上げない代わりにできる限り中国語を話すように努めた。他のプログラム参加者、クラスの先生や現地の学生らと中国語で会話するように努めた。すると中国語を話したり学んだりすることが格段に好きになった。なぜなら元々自身の中国語会話レベルが非常に低かったため、目に見えて私の中国語が伝わるようになったからだ。上級クラスの生徒の勉強法を取り入れてみたり、自分が普段日本語でよく使うフレーズを全て中国語訳してみたりなど、自分の言いたいことが相手に伝わる方法をいつも考えていた。しかし、学ぶほど自分の未熟さを実感する機会も増えている。香港でお会いしたOBの方が、成功をするのはそれ以上の挑戦と失敗を重ねてからだと言言していた。彼の論理が正しいとするならば、中国語学習において私のした挑戦や失敗はまだまだ全然足りてはいないということだ。この研修で得た中国語の楽しさと自信を忘れずに、私はこれからもミスを恐れず中国語で発言していこうと思う。



▲校舎の一部



▲孙先生と私

一か月間に及ぶ今回のプログラムのうち、三週間を占めるこの語学研修！各自ネイティブの先生の下で三週間みっちり中国語を教わりました。授業は月曜～金曜まで午前、午後と約2時間ずつ行われました。一クラスの中でVocabulary & GrammarとOral Skillsに授業が分かれており、それぞれ別の先生が一日ずつ交互に担当されていました。

○授業内容

クラスはネイティブレベル～初学者まで4段階に分かれていましたが、私は一番下のクラスで学んでいました。授業は中国語を全く知らない人向けの内容で、一週目はピンインの発音や四声の違い、簡単な漢字の書き方を、二週目からは場所をたずねたり、レストランで注文したり、日常のシチュエーションを中心に簡単な会話を学びました。初学者向けの授業だったため、授業は中国語ではなく英語で行われていました。

○クラス

今回のCUHKのサマープログラムは日本人参加者が全体の5割を超える圧倒的日本人率でしたが、私のいたクラスは日本人が少なく授業中にフランス語やドイツ語が飛び交うインターナショナルなクラスでした。授業中はもちろん休み時間も英語で会話が行われ、中国語と同時に英語も学べた三週間でした。(クラスメイトは漢字を見たこともない人がほとんどだったので、漢字を見て苦悩している姿がとても新鮮でした。)

私は第二外国語も中国語ではなく今回のプログラムで初めて中国語に触れましたが、授業も分かりやすく中国語を学ぶことがとても楽しかったです。また中国語だけでなく様々な言語を学べば学ぶほど、自分の世界が広がっていくように感じました。



郭老师

郭老师とクラス全員でご飯を食べに行きました！

インターン型教育プログラム

概要

インターン型教育プログラムでは、CUHKの学生4人・一橋の学生3人の計7人を1チームとして構成し、計3チームがそれぞれ2つのお題に対してマーケットリサーチなどを行って解決策の提案をプレゼン形式にして発表します。今回のお題は、Alibaba・伊藤忠香港・伊藤忠 textureの3社から計3つのお題をいただき、プログラム初日には全員で企業訪問を行ってそれぞれの企業の方からお題内容についての説明を受けました。そしてその後はチームごとの行動になり初日の夕方及び中3日をプレゼンの準備に費やし、最終日に企業の方を前にして発表するという流れになります。プレゼン発表には企業の方のみならず、研修中にお会いしたCUHKの先生やOBさんにいらしていただきました。

インターン実施中の行動例(グループ1)

	午前	午後
1日目	集合・メンバー顔合わせ 伊藤忠香港訪問	伊藤忠 Texture 訪問 Alibaba 渡辺さんと Skype 日本・香港からのプレゼン@CUHK チームで打ち合わせ
2日目	マーケットリサーチ@銅鑼湾	リサーチ結果まとめ
3日目	一橋の学生で進捗報告会 チームミーティング	方向性の決定
4日目	先生への方針発表 方向性の再検討	プレゼンテーション作成
5日目	プレゼンテーション作成・調整	プレゼン報告会 懇親会

お題 1 (ALIBABA)

文責：松井咲樹

今回のインターンでの課題の中で一番漠然としていたお題が Alibaba さん出題の「Brexit により日本と香港の中小企業に与える影響はどのようなものか、またその状況下だからこそ有益となる事業分野は何か」でした。

漠然としていたというのは、何をすればこの答えが導けるという道筋が不明瞭だということです。なぜなら、Brexit は 2016 年の 6 月に発生したばかりでありまだ英国の完全なる離脱が決まったわけではないので、その影響が未だ市場に完全には広まっていない中で課題の答えを導き出さなければならなかったからです。実際、香港出国前にこの課題に取り組む期間がありイギリスの EU 離脱に伴う中小企業へのサポートを行っている公共機関に複数箇所電話を掛けましたが、それらすべての機関から得られた答えは「まだ具体的な相談案件はない」「個人的な予測では円高の影響が一番大きいと見込まれる」といったものでした。ここで注意したいのが、円高などの為替の変動にいちいち左右されて開拓分野を変更するほど事業は簡単に展開・撤収できないということです。つまり、発展事業を選定する段階で為替を考慮に入れるべきではないのです。ここまで考えてようやく、「では Brexit からどんな影響が見込まれるのか仮説を立てよう」「さらにどんな事業がその状況下で最も有効なのか吟味していこう」という根幹に帰着します。さらにこのお題は「日本企業と香港企業それぞれのメリットとなるような事業でなければならない」というものなので、言ってしまえばかなり厄介な条件の付いた仮説にどれだけ現実味を加えられるかというものでした。そして何より難しいのがここまでの考える道筋を香港の学生と共有した上で議論を進めていくという点でした。

ここまでを共有して各自持ち帰りで何か一つの香港と日本の中小企業に有益な事業分野を見つけに来るのに 1 日かかり、そしてそこから持ち寄ったアイデアから一番良いものを選び Brexit との関係性を編み出して理論づけるのにもう 1 日。結局私たちが何とかプレゼンの形を完成させたのはプレゼン本番の 3 時間前。直前まで追い込まれながらの作業でした。プレゼンをその日のうちに作り終えることができず、夜な夜な午前 3 時までホテルのロビーで作り続けたこともありました。もっとスムーズにプレゼン作りを進めたチームもありました(私のチーム以外は時間に余裕を持って仕上がっていた模様...)が、ここで得られた経験は他では得られない大変貴重なものであったと感じます。例えば、仕事に就いてから学ぶ考え方として、アイデアに詰まった時は「ゴールから考える」「我が事に置き換えてみる」ことです。市場開拓をするにはどうすれば良いのか、うまくいきそうな商品を机上で考えているだけではどうしても考えが煮詰まってしまって...そんな時は、「何を売ろうか」ではなく「〇〇が売れたらどうなるか」と後ろから考えてみて、また「例えば Brexit と同じように日本がアジアから抜けたら日本は生きていけるのか」と自分のことに置き換えてみることで見えてくるものがだいぶ変わりました。このようなアイデアの出ないもどかしさと道筋が見えた時の興奮はなかなか味わえるものではありません。また、相手をプレゼン一つで納得させるには、伝え方も肝心で、「結論を先に言う」「具体例を多用する」「同じ事例を引用する」といったことを意識するだけで伝わり方をさらに良くすることができました。

たった5日間だが多くの刺激や経験を積むことができた大変濃い日々であり、忘れることのできない体験です。有意義な経験をさせてくれて、またプレゼンの翌日には離島に遊びに連れて行ってくれた CUHK のメンバーに感謝したいと思います。



↑ チームメンバー。日本人、香港人、台湾人、ドイツ人と国際色豊か！



↑ フェリーで長州という離島に☺

お題 2 (伊藤忠香港)

文責：久本麻央

伊藤忠の食品部門から与えられたお題は「香港市場における日本食品/食材の販売額を 2 倍にする施策を検討する」というとてもシンプルなものでした。しかしながら、シンプルだからこそ、どんな方法でも検討可能であり、どんな食品にでもアプローチ可能であることを意味します。このお題には現地調査が不可欠ですが、現地調査だけで簡単にアプローチをする食品を決めるべきではないといえます。CUHK の学生も消費者であり、香港事情についてのエキスパートであることを忘れてはいけません。

私たちはこのインターンに今後参加する方に三つのアドバイスをしたいと思います。

一つ目は、日本人としての誇りを持つことです。CUHK の学生の多くは過去にインターンを経験して来た者が多く、企業が求めるビジネスプランに沿った考えをいとも簡単に発言していきます。データ分析やパソコンの扱い、英語でのディスカッションなど日本人よりはるかに優れている能力を持つ者が多く、圧倒されるかもしれません。しかしながら、議論についていけないからと CUHK の学生に任せきりにするのではなく、自分は日本人として異なるバックグラウンドを持っているということに自信を持ち、少しでも彼らと異なる意見を言えるよう、議論に食いついていくことが重要なのです。英語でうまく議論ができなくても、プレゼンに慣れていなくてもいい。しかし、日本人だからこそ分かる意見を出し、議論を深めることがこのインターンのミソなのです。

二つ目は、積極的に CUHK の学生に質問していくことです。確かに一橋の学生は日本事情についてのエキスパートといえますが、そこで終わってしまうのはもったいない。香港のエキスパートである CUHK の学生に気になることをどんどん質問してください。質問することで、日本と香港の比較ができ、食文化の違いを見つけることができます。日本に滞在していない彼らにはできない、私たちだからこそできることです。

三つ目は、感性を磨くことです。ここで「感性を磨くってどういうこと？」と思った方もいらっしゃるかもしれません。感性を磨くとは、つまり、香港でしか味わえない経験をし、五感を使って日本と香港の違いを見つけ出せということです。これはインターンの 1 週間だけでできるものではなく、その前の 3 週間で多く培われる部分があります。語学研修の 3 週間の間に香港市内、澳門、深圳旅行があり、日曜日は自分で香港を観光してみるなど中国を知る機会はいくらでも転がっています。そのような機会を使い、街の様子や販売されている食品や品物、人々の生活の様子を注意深く観察することで、日本と香港の違い、そこに存在するビジネスの可能性に気づくことが容易になるのではないかと思います。

このインターンでは香港のことを詳しく知ることができたほか、外国人が考える日本の存在、または日本の食品の価値を改めて認識することができました。このインターンを充実したものにするためにサポートしてくれた方々に感謝しながら終わりたいと思います。

お題3(伊藤忠 TEXTURE)



文責：徳橋和紀

私たちに与えられたお題は“香港市場で Outdoor Products の売上を 2 倍にする施策の検討”でした。現在香港市場において Outdoor Products の上のデザインに代表されるようなデイバックの売り上げは上代 5 億円であり、それを倍にする経営戦略を考案するというものです。私たちは売上を一部増やすのではなく、倍にすることを要求されていました。売上を倍にする。その目標は私たちチームに何か根本的な変革を迫っているように感じられました。

インターンの初日、この日が CUHK のグループメンバーとお披露目の日でもありましたが、実際に伊藤忠 Texture の繊維部門で今回のプログラムの代表の方にお話を伺う機会が与えられました。Outdoor の企業としての経営方針、セールスポイント、こだわりなど具体的な、生きた情報を得ることができました。私たちはまずその情報をもとに売り上げを倍にするために乗り越えるべき問題点をいくつか挙げました。現段階ではこれらは仮説でしかないので、次の手順としてそれを裏付けるために市場調査を実施する必要性がありました。そこで私たちが目をつけたのが、昨今どの売り場でも例外なく目にすると言っても過言ではないほどお馴染みである、上のデザインのリュックサックを最初に市場に紹介したのは Outdoor Products であるという事実です。実際に私たちのグループでもこのデザインの起源が Outdoor Products にあったという認識を持つ方が少数でした。このことをもっと大々的に宣伝して、消費者に認識してもらい、オリジナルのイメージを植え付けるべきである。オリジナルであるならその他のブランドが紹介している似たタイプのバックパックとの差別化が図れるであろうし、Outdoor Products の商品の価格が多少高くてもそれに見合うブランド力と品質の良さを印象付けることができるだろう。そのための具体策として復刻版の販売などオリジナルを強調した商品の販売を提案しました。より強いブランドイメージの確立。それが私たちの目指す最初のゴールでした。

当然、ブランドのイメージを上げることが直接的に売上の倍増には繋がらないでしょう。そこで私たちは新たな市場の開拓を提案することにしました。私たちは本来のターゲットの年齢層である 15 歳から 20 代前半までより少し若い、小学生の市場に目をつけました。日本では小学生はほぼ例外なく皆ランドセルを使用していますが、香港では小学生向け市場に圧倒的なシェアを誇るブランドがない点に着目しました。Outdoor Products の製品の質、耐久性、デザインのシンプルさ、またブランド自体への高い信頼はまさに小学生向け市場で求められている要素であると考えたのです。この市場に目を向けたもう一つの理由が、小学校入学時は子供にとって自分が日常的に使用するリ

リュックサックを手に入れる最初の機会であると考えた点にあります。人生で最初のリュックサックとして **Outdoor Products** の商品を使ってもらい、その質に触れてもらうことでその後も引き続き **Outdoor Products** の商品を購入してもらおうことを目指すのです。この可能性を考慮すれば、短いスパンでは小学生の人数分の売上の伸びが期待できるかもしれませんが、長いスパンで見ると、そのポテンシャルは計り知れないのではないのでしょうか。小学生向け市場の開拓とリピーターの獲得。これが私たちの目指す究極のゴールです。

Outdoor Products のメインターゲットの年齢層はほぼ飽和状態にあるというのが私たちの最初のスタート地点でした。成熟して固定された市場。そこにどうすれば変化をもたらすことができるのだろうか。それを突き詰める方向で考えを進めていったのです。

今回の機会に経験したフィールドワークは伊藤忠 **Texture** で行われている仕事とは多かれ少なかれ差異はあるとは思いますが、実際に商社で働いている、または働いた経験を持つ方のアドバイスを受けながらマーケティングや経営戦略を組み立てるなど本当に貴重な経験が出来たと思っています。そして今回私たちを支えてくださった先生方、エージェントの方々、香港中文大学、一橋大学のみんな、そしてこのプログラムに協力してくださった伊藤忠 **Texture** の皆様には感謝してもきれません。本当にありがとうございました。

香港・深圳・マカオ観光

文責：伊東美帆

齊藤歩

* 香港観光

・ 香港市内観光

香港に到着してから最初に迎えた週末、私たちは中文大学のプログラムの一環で香港市内を観光しました。バスを利用して最初に訪れたのはヴィクトリア・ハーバー。きれいな青色の海と対岸のビル群が壮観でした。そして、この景色は夜になると美しい夜景に変わります。夜8時からは光のナイトショーが行われ、シンボルの時計塔などにプロジェクションマッピングで映像が映し出されます。また、フェリーで対岸に渡り、観覧車や巨大なチェスがある公園で遊ぶこともできます。



↑ヴィクトリア・ハーバーのシンボルの時計塔。ポケモンGOのポケストップでもあるそうです。

その後は中華料理店でランチをし、バスでショッピングモールへ向かいました。ここからも青々とした海を臨むことができます。海辺にはテラス席を備えた飲食店が並び、まるでヨーロッパの街並みのような優雅な雰囲気を醸し出していました。

最後に訪れたのはヴィクトリア・ピークです。山頂から見渡せるビル群からは、香港がいかに発展した都市であるかを感じ取ることができました。ここから見える夜景は100万ドルの夜景とも称される絶景です。一緒にツアーに来ていた中文大学や他大学の学生とはここで別れ、私たちは登山列車のピークトラムに乗って下山しました。



↑山頂側に到着したピークトラム。朝の通勤ラッシュのごとく大量の人が一斉に乗り込みます

ピークトラムは山の急斜面に沿って下るため、油断するとすぐに車内でバランスを崩してしまいます。

今回のツアーでは1つの場所に滞在する時間が30分にも満たない弾丸ツアーでしたが、香港の観光名所を日帰りで行くことができる盛りだくさんのツアーでした。

・沙田

大学駅から地下鉄で2駅の沙田駅には大きなショッピングモールがあり、ブランド品、化粧品、飲食店、スーパーなど様々な店が入っています。ショッピングモールを抜けたところにも飲食店がたくさんあり、留学初日に中文大学の学生に連れられてヌ



↑エスカレーターから撮影したショッピングモールの様子。実際はこの写真には収めきれないほど広く、油断するとすぐに道に迷ってしまいます。

ードル屋に行ったり、一橋のメンバーと一緒にスイーツやおかゆを食べに行ったりしました。大学から近いため、授業が終わった後に自由時間をここで過ごす人も多く、私も中文大学最後の日に一人旅を楽しみました。

・海洋公園

海洋公園は香港島の南に位置するレジャーランドで、ジェットコースターなどのアトラクション、水族館、ウォーターショーなど様々な見どころがあります。山の山麓側と山頂側に分かれており、ケーブルカーやケーブル鉄道で行き来することがで

きます。私たちは主に山頂側のアトラクションを中心に回りましたが、どこも子供から大人まで多くの人利用していました。また、極地をイメージした水族館であるポ



↑入口の前でパシャリ。入場する前から楽しい雰囲気になりました。

・旺角

旺角は九龍地区の北端に位置するととても賑やかな街です。中文大学の学生さんに、旺角にある火鍋のお店に連れてってもらいました。鶏がまるごと一羽入った鍋が登場したときは、皆驚きました。



↑鶏が丸ごと1羽分入った火鍋です！

ーラーアドベンチャーでは、アザラシやセイウチが気持ちよさそうに泳いでいる姿を見て癒されました。他にも、ジャイアントパンダを見られる施設や、香港の古い街並みを再現したエリアもあります。海洋公園の内部で売られている食事や飲料はとて高いため、外部で食事を買い、持ち込むことをおすすめします。

場したときは、皆驚きました。入れる具材は肉、魚、野菜からカラフルなフィッシュボールまで、様々です。日本のものとはテイストの違う香港の鍋料理に皆大満足でした。ただし、肉や魚にはきちんと火を通してくださいね。また、旺角の見どころであ

る女人街にはチャイナドレス、既成キャラクターグッズ、招き猫など、女性向けのものを中心に様々な商品が所せましと並んでいました。チャイナドレスや刺繍の小物は色鮮やかで、見ているだけでも存分に楽しむことができました。値引き交渉にも挑戦できます。その後は旺角の通りを巡り、スイーツ店や果物屋に立ち寄りしました。

・長洲島

長洲島はランタオ島の南東に位置する小さな漁村の島で、中環からフェリーで1時間ほどかけて行くことができます。フェリーから降りると、飲食店や土産物店などが並び、海辺の商店街のような雰囲気が感じられました。メインストリートから狭い道



↑長洲島の港に停泊している漁船。漁村としての一面が垣間見えます。

に入ると、観光客の目の届くところにも民家があります。フィッシュボールやトルネードポテト、スイーツなどの食べ歩きを満喫しました。食べ歩きをしながら狭い通りを歩くことには、経済的に発展している香港の都市域を巡ることとはまた違った良さがあります。忙しかった1か月間の疲れが癒されました。

香港の中でも人気の東湾という大きな海水浴場もあり、たくさんの人で賑わっていました。

* 深圳観光

香港に到着してから3週目の週末には、大学のプログラムで中国大陸の深圳へ観光に行きました。香港中文大学がある大学駅から地下鉄に乗って終点の羅湖駅まで行くと、すぐに出国手続きが行われます。意外にも、思っていたよりはるかに簡単に中国本土へ入国できました。最初に訪れた深圳博物館では、改革開放期をはじめ、様々な



↑深圳博物館の、古代の深圳に関する展示

展示を見ることができました。館内での撮影は禁止されておらず、見物客は思い思いに展示物を写真に収めていました。じっくりと見学していたら1日かかってしまうのではないかと思うくらいの、見ごたえのある展示内容です。

本場の中華料理に舌鼓を打った後に訪れたのは、大型のブックストアである深圳書城です。私たちが最初に目にして驚いたのは、人々が地べたに座って本を読んでいる光景でした。中には、本棚の間にぴったりと収まって読書をしている人もいました。深圳書城では、絵本から雑誌、旅行ブックまで様々な種類の中国語で書かれた本が売られており、日本を紹介している旅行ブックも見つかりました。薄くて読みやすい絵本をお土産に買って帰ったメンバーもいました。



↑深圳書城内部の様子。1日ではとても見尽くせない広さです。

最後に訪れた公園では、途中で降って来たスコールによって水浸しになった芝生の上を皆で歩き回りました。芝生が広がる広場から街の方向を眺めると、大きなビルが何棟ものぞいていました。香港に劣らない深圳の発展ぶりがうかがえる景色だといえるでしょう。

* マカオ観光

8月13日(土)、中文大学の学生1名と中国語プログラムで同じレベルになった人4、5名でグループを組み、マカオ観光に行きました。中文大学の学生が各グループのリーダーとして、メンバーの希望を取り入れつつツアーを組んでくれました。



観光地での交通費や食費はプログラムの費用に組み込まれており、追加の支出はほとんどありませんでした。また、マカオでは香港ドルが使えるので両替も必要ありませんでした。マカオまでは、大学が用意したバスとフェリーを乗り継いで行きました。同じ国の中にあるマカオと香港ですが、そ

↑マカオに行くのに使ったフェリー

・観光都市としてのマカオ

マカオといえばカジノで有名ですが、カジノの入場条件は21歳以上なので見学することはできません。しかし、カジノを併設するホテルには出入りすることができます。私たちはベネチアンホテルとギャラクシーホテルに入りました。ホテル内は豪華な装飾が施されており、有名ブランド店や高級料理店などが立ち並んでいます。



↑ギャラクシーホテル



↑ベネチアンホテル

・マカオの交通手段

私たちが多くのホテルを見学できた理由として、マカオを走る無料バスの存在があります。これらのバスはホテルが提供しているものですがホテル利用者以外も乗車でき、待ち時間もほとんどありません。行き先もホテルだけでなく観光地やフェリー乗り場も含んでいるので、マカオを観光するのにとても便利です。無料 Wi-Fi のサービスまでありました。

・マカオの世界遺産

ユネスコの世界遺産「マカオ歴史地区」に含まれる場所を観光しました。

<大三巴>

日本語では「聖パウロ天主堂」として知られる、ポルトガルの17世紀の大聖堂の遺跡です。イエズス会士によって建てられたこの天主堂は、当時アジアで最大のカトリック教会でした。天主堂までの階段はたくさんの観光客で賑わっており、周囲には露

店がたくさん出ていました。聖パウロ天主堂までの道にも多くの店が出ていてとても混雑していました。



↑たくさんの人で賑わう大三巴（左）とその周辺のマーケット（右）

< 盧家屋敷（マンダリンハウス） >

19世紀に中国の豪商が建てた屋敷跡です。典型的な中国様式が採用されており、細かいところまで彫刻などの装飾が施されていました。記念スタンプも置いてありました。



↑マンダリンハウスの彫刻（左）とスタンプ（右）

< カルモ教会 >

これは19世紀にタイバ島に住むカトリック教徒のために建てられた教会です。黄色が美しく、近くに十字架や婚姻登記局もあり雰囲気が良いので、結婚式やドラマの撮

影に人気だそうです。婚姻登記局も見学でき、建物の中の椅子に自由に座ったり写真を撮ったりできます。



↑カルモ協会（左）と婚姻登記局（右）

マカオには、近代的なビルやカジノ付きの豪華なホテルがあると同時に、マカオ歴史地区のような世界遺産や、昔ながらの街並みや寺院もあり面白かったです。ポルトガルと中国という二つの文化が交じり合っていてできていることが感じられました。



↑昔ながらの街並みを感じられるマカオの露頭

『地球の歩き方』編集室（2015）『地球の歩き方 D09 香港 マカオ 深圳』株式会社
ダイヤモンド社 を一部参照

個別報告

香港研修の達成度合

文責: 吉田亜未

私は、研修前、中国語力の向上と香港市場について詳しくなることを目標に掲げ、研修に挑みました。

中国語力の向上においては、期待値の85%程度達成できたと思っています。CUHKでの中国語プログラムは、1クラス15人前後という少人数クラスで、1人1人が十分に中国語を話す機会を与えられ、また授業の進行も全て中国語で行われたため、中国語のスピーキング・リスニング力は、研修に行く前と比べてかなり上がったと思います。授業中に発音を丁寧に直してくれたり、ネイティブが使うフレーズなども教えてくれるため、非常に実用的な中国語を学ぶことができました。私のクラスは2回プレゼンテーションをする機会があったのですが、その度に先生が私の作った原稿の文法の誤りを訂正してくれたため、ライティングスキルも向上させることができました。さらに、CUHKの中国語プログラムは、授業だけでなく、マカオ・深圳旅行でも中国語を学ぶ機会を与えてくれました。学校側が1グループに対して1人、マンダリンがネイティブなCUHKの学生をチームリーダーとして派遣し、その方と共にマカオや深圳を1日観光するのですが、その方が旅行中、積極的に中国語を話してくれて、分からない単語も教えてくれるので、非常に勉強になりました。

香港市場の熟知は、60%程度達成できたと思っています。当初はインターンシップを通じて香港市場全般について詳しくなりたいと思っていたのですが、インターンシップだけでなく、和僑会や堀部さんの知り合いの方など、実際に香港で働いている社会人の方との交流を通じて、香港市場について様々なことを学ぶことができました。また、社会人の方からお話を聞くだけでなく、実際にスーパーマーケットなどの小売店に行くことで、香港での人気な商品や最近の流行を知ることができました。Outdoorの課題を通じて香港のバックパック市場については詳しくなることができましたが、Alibabaはかなりマクロな視点からだったため、そこまで香港について詳しくは学べませんでした。

個別報告

短期海外研修を終えて

文責: 石毛奈津美

*目標

私がこの短期海外研修に参加する前に立てた目標は「語学力の向上」と「色々な人と実際に関わり自分の視野を広げる」でした。まず「語学力の向上」についてですが、大学入学以降英語を勉強することもなく二年半過ぎてしまったので、もう一度真剣に英語を学び直したいと思い目標に挙げました。「色々な人と実際に関わり自分の視野を広げる」については、せっかく香港に行くので、その環境を活かして積極的に行動して少しでも多くのことを吸収していきたいという気持ちを込めて目標に挙げました。

*結果

私の所属していたクラスは日本人が少なかったため予想以上に英語を話す機会が多く、毎日中国語より英語の勉強をしている気分で、特にリスニング、スピーキングは以前より出来るようになったと思います。またそのようなクラス構成だったためか、共通言語としての英語を学ぶ重要性を強く感じました。「一生日本から出ないから英語なんて必要ない」という人がよくいますが、アメリカやイギリスに行くから英語が必要なのではなく、様々な国の人が入り混じってコミュニケーションをとる際に基準となる言語が英語なのであって、英語が話せないということは日本人以外の人とのコミュニケーションを全く想定していない自己中心的な考え方なのかもしれないとも思いました。この研修中英語が話せずに後悔することばかりだったので、今後は英語の勉強に力を入れていきたいと思います。また語学研修で中国語の勉強が楽しかったので、この気持ちを思い出で終わらせず資格試験等何らかの形で結果に残したいと思っています。今回CUHKの学生やクラスメイトなど様々な国の人と関わったことで、相手について知るのと同時に自分自身についても考え直すきっかけになりました。皆それぞれ何気ない会話の中でも自分が何をしたいのか、どうしてそうしたいと思ったのかを話していて、私も普段から自分が何を伝えたいかを毎回考えるようになりました。たくさんの人と関わって様々な考え方に触れることが出来て、また自分自身についても知ることが出来て視野が広がりました。

*感想

私がこの短期海外研修に興味を持ったきっかけは海外へ行くことへの漠然とした憧れと香港の学生とのインターンシップが面白そうというごく単純なもので、初回の授業で中国語の語学研修の存在に気付く内心とても焦ったことをよく覚えています。你好くらいしか中国語が分からない状態で参加して大丈夫なのかと不安になり辞退しようかとも何度か考えたのですが、一か月間を終えてこの研修に参加して、たくさんの人と関わることが出来て本当に良かったです。

個別報告

香港での一か月を経て

文責: 松井咲樹

私は今回の香港研修が二度目の香港であったため、香港については他の人よりも慣れている部分がありました。しかし、前回の旅行に対し今回の留学はまた違う視点で香港人と触れ合い、自分を見つめなおす良い契機となりました。私の香港研修出発前の目標とその成果、そして現地で気づいたことを順に述べていきたいと思います。

今回の香港への1か月留学を通して立てた目標が積極性・語学力・全力の三本でした。身の回りにあるチャンスを活かして積極的に挑戦していくこと、中国語と英語の両方を伸ばすこと、そして何事にも妥協せず全力で取り組むこと。私の中では、この香港研修を有意義なものにするためにも3本のうちどれかが欠けてもいけない、すべて達成したい目標でした。香港研修から帰ってきた今、目標一つ一つを振り返ってみます。まずは、積極性について。週末には香港人の友達に会いに行くこと、一人旅での大佛巡りなど以前の香港旅行でできなかったことができました。また、中国語を香港人に教えてもらう、日本人同士であっても使っていくということにも取り組むこともできましたが、もう少し私の体力と気力があればもっと現地の子の誘いに応じることができたと思うため、積極性については80%達成というところです。次に語学力について。中国語をこれほど毎日触れ続けた経験はこれまでになかったため自分の成長を感じることができました。驚いたことに私たちと同時期にプログラムに参加していた生徒の半分が日本人という環境であったためどうしても日本語をしゃべることが多くなってしまいましたが、彼らの中には同時期に習い始めたのに母語話者同然のようにしゃべれる子もおり、彼らの向上心に触れることでより一層帰国後も続けようというモチベーションになりました。また、最終週のインターン型プログラムでは英語中心の活動になりましたが、正直自分の英語は日常会話の範囲を超えると使い物にならないと心から実感しました。中国語は日常会話レベルまで、英語はビジネス議論レベルまで向上させたいと思い語学力に対して意識が大きく変わりましたが、これからの成長も込めて研修での語学力の達成度は50%です。そして最後に、全力について。遊びも勉強も自分がやれる範囲ではやり切ったと言える香港研修だったので達成度は100%です。

今回の研修では、香港人と深く触れ合うことができました。香港人は広東語も英語も北京語も話せるため、正直何度も彼らを羨ましいと思いきさいころの私はいったい何を学んでいたのだろうかと思度も疑問に思いました。こうして語学面では彼らの方が圧倒的に優れているため彼らは自分を遥かに超えた人と感じていた一方で、恋愛話やくだらない冗談で盛り上がるところが彼らも同じ学生なのだと思います。また、マメでない子も最後の最後はしっかりする、日本人がお世辞で使う「また会おうね」がきちんと実現するという意味で日本人との違いを感じることもできました。

中国語プログラム、インターンの双方を通じて最も強く感じたのが、学んだことを実践に移すことの重要性です。日本の授業ではとにかく文法と単語量を増やし実際に使うことは二の次になっていることが多いのですが、中国語プログラムでは学んだ単語や文法を用いて友達と会話してみる時間が授業の大

個別報告

方を占めており、知識を身につけるには実際に使ってみる時間がなにより大切なのだと実感しました。さらに、インターンの方でもどんなに初めて議論する内容であっても自分の知っている知識や能力を活かせれば良かったのにと後悔する点がいくつもあります。例えば、SWOT分析やPPMなど習ったはずの用語が飛び交った際に、知識を知識だけとして持っていたがために実際にそれを用いて自力で企業分析するまでには至らなかったことです。このように習得したものは使うことでしか身に付かないと改めて感じる経験をした一方、むしろ使うことで習得し自信を得られるという経験もできました。その一例として、当初は英語をうまく伝えられずに議論についていくことに精一杯だったものが、自分の存在を消したくないという思いから気合で発言をしてみるとどんなに拙い意見でもきちんと聞き入れられたことです。英語に自信がないことは引け目になることではなく、そのような状況下でも如何にきちんと意見が言えるかが大切だと感じました。また他にも、初めての本格的な市場開拓リサーチで、アイデアに詰まった時にはどうすれば良いのか、どのようにうまく伝えるか、これらのことは知識以前にいきなり実践的に取り組んだため自分の中でかなり大きな経験の糧となっています。

たくさんの貴重なことを学ばせていただき、今後はただ机上で学ぶだけでなく実際に友達との会話で使ったり語学試験でその能力を測ったりと実践に移していきたいと思いました。これは授業の知識においても言えますが、期末試験のための知識からビジネスの場で使うための知識という意識を持って学んでいきたいです。そして、なんといっても何をするにも大切な気合をずっと持ち続けていきたいです。

個別報告

新たな一面の発見

文責: 神谷 有紀

私がこの研修で定めた目標は「次につながる一か月」でした。これは大きく分けて三つの意味合いがありました。一つ目は中国語の基礎的な会話力をつけることで今後の中国語学習に良い動機づけを与えること。二つ目は香港で様々な人々とふれあい、生の声を聴くことで香港と日本の文化やライフスタイルの違いを知ること。三つ目は現地の学生と価値観を共有したり、課題に対して新たなアプローチをしたりすることで自身の成長を図ること。

達成度は三つともおおむね良いと思います。語学に関して、実力はまだまだネイティブスピーカーから程遠いですが、先生やクラスメイトたちとともに授業を受ける中で中国語を学ぶ楽しさを強く感じ、大きな刺激となりました。自分で考えた言葉を使って中国語を話す機会が多くあったため、研修を受ける前よりも中国語を話すことやその際に間違いを犯すことへの恐怖感が薄れたことも大きな意識改革となりました。香港では様々な人と出会い、「香港人だからこうである」とひとくくりに言えないということを知りました。現地人にも様々なセグメントの人が存在し、都心の裕福な家庭においてもメイドがいないこともあるし、外食を頻繁に行わないこともあるのです。職種、年代、学歴や居住地などによっても考え方が異なるため、一つのセグメントにおける特徴が他のすべてに当てはまるわけではないことを実感しました。ビールが苦手なドイツ人やコーヒーが飲めないスウェーデン人もいるということです。同様に中国大陸からの旅行者も様々なセグメントの人が存在するため、その思想や消費行動が全く同じことは考えにくいと思います。私は中国の各地域全てをひとくくりとしてとらえていましたが、北京、上海、深圳、香港などの一つ一つは日本における北海道と沖縄と同じかそれ以上に異なるのだと感じました。今後中国に関して何かを議論したり取り組んだりする際は、客観的なデータのみを頼りにせず、アプローチしたいセグメントを絞ってからその思想、文化、歴史などを事前に学ぶようにしようと思います。自身の成長に関して、自分と全く異なる思想や背景を持った人間と話すことでより柔軟に物事を考えられるようになった気がします。CUHKの学生は台湾や上海など異なる地区の中国から来ている学生も多くいるため考え方に多様性があり、北京語、広東語、英語が皆話せるためより多くの知識をもっているように感じました。日本文化を専攻している学生などは政治学などの観点から異なる日本の見方をしており、話をしている面白かったです。

今回の研修は予想外の連続でした。レストランで名前から予想したものが出てきたこともなければ、中国と世界を結ぶ国際金融センターの名から連想されるような誰でも英語が話せるということもなかったです。その中でも一番驚いたことは、香港人の対人関係の距離感と有言実行の精神でした。香港人に限らず他のアジアから来ている方もですが、一度仲間であると意識されるととても力になってくれるし、思いやりを持って接してくれました。日本人は親切な人は多いですが比較的受動的な優しさである気がします。日本に特別興味がなくても日本人の私と自分の所有物を共有したり危険から守ろうとしたり、行き過ぎればおせっかいかもしれませんが、私は仲間の一人だと認識されていると感じたため、非常に嬉しかったです。

個別報告

メディアを通して知る中国と実際の中国の印象は違うと思います。しかし私はまだ香港という一面でしか中国を知りません。この研修をきっかけに次は北京や上海なども訪ねながら中国の実情により深く迫りたいです。そのために今後も勉強に励み、会話力の向上に努めていきます。最後に、一か月間優しくサポートしてくれた同じ研修参加者、先生、関係者様、このような充実した素晴らしい経験をありがとうございました。



▲インターン時のチーム写真



▲マカオ研修時の写真

“異文化”を体感した1か月

文責:萩原理沙

この研修において私が掲げた目標は、香港の複雑な歴史がどのように人々の生活・思想に影響しているかを自分の目で確かめること、そして、これから解決すべき国際問題を自分なりに発見し、今後の進路選択の際に活かせる学びを得ることでした。

それでは、目標は達成できたのでしょうか。まず、香港で暮らす人々の生活・思想については、1か月滞在しただけなので深い部分まで知ることはもちろんできませんでした。しかし、もともとイギリスの領土であったこと、中国本土とは異なり資本主義経済を取り入れていることから、彼らの“中国人”としてではなく“香港人”としての意識を感じるが多々ありました。例えば、彼らは北京語を話すことができますが、北京語で話しかけてもあまりいい顔はされず、広東語で返ってくるものが多くありました。一方、英語で話しかけると愛想よく接してくれました。また、香港は自由貿易港であることから、スーパーマーケットには外国製品が数多く並び(その中でも日本製品が占める割合は非常に高かったです)、外国の良いものはそのまま取り入れるスタイルが伺えました。会話をしている間、日本人と比べて外国への関心が非常に高く、特に日本・中国本土・台湾の文化や政治に詳しい事がよくわかりました。

次に、「これから解決すべき国際問題・及び自身の今後の進路選択の際に活かせる学び」について。前者に関しては、あまり注意を払っていなかったというのがありますが、さすがに1か月滞在しただけでは見出すことはできませんでした。しかし後者に関しては、得るものは多くありました。というのも、1週間のインターンシッププログラムを通して、香港人だけではなく、ドイツ人・台湾人の学生と深く関わったことで、日本人と外国人のコミュニケーションスタイルの違いを痛感させられたからです。海外の教育は“アウトプット”に重点を置いていることからくる違いでしょうが、それにしても海外の学生の積極性・コミュニケーション能力の高さには驚かされました。それに加えて、知識量・語学力の面でも圧倒的に日本人より勝っており、将来国際社会で生きていくのならこれらの壁を乗り越えなければならないのだと思い知らされました。

この研修を通じて得られた香港と日本に対する認識、意識、視点の変化は何だったのでしょうか。研修に参加する前は、“香港は中国の一部”という程度の認識しかありませんでしたが、現地の人との交流・深圳観光などを通じて、“香港と中国本土はほとんど別国”であるとの認識に変わりました。言語・政治・文化・歴史の面で中国本土と大きく異なり、それが現地の人々の中に深く根付いていることを様々な場面で感じさせられました。

また日本に関しては、香港の人々・文化などとの比較の中で、日本人の海外に対する認識の低さ・外国語への取り組む際のハードルが高いこと・自分の意見を発信するのが苦手であること、との認識が芽生えました。前述の通り香港の学生は自国以外の国の事情にも詳しく、言語面では小さいころから広東語に加えて北京語を習い、中学以降は英語で勉強しています。そのため、3か国語を話せるのは当たり前、大学では+α新しい言語を学ぶ、という状態で、言語に対する壁が非常に低いように感じられました。

個別報告

マイナス面ばかり述べてきましたが、プラス面では、日本人は何事にも勤勉に取り組むこと、一つ一つの事を丁寧に行うこと、の長所を見出すことができました。

このように香港での1か月間は非常に有意義な学びのときでしたが、全体を通して自分の語学力の低さを痛感させられました。今後は今まで以上に“使う”ことを意識して言語を学び、自分の考えを相手に正確に伝えられるように、また、日本のメディアからは得られない情報も外国のメディアを通して取り入れられるようになりたいと思います。

初の海外での収穫と課題

文責：伊東美帆

本研修への参加が決定した際、私は、自分はとても恵まれていると感じました。その理由は、1か月間香港に行かせていただき、優秀な一橋や他大学の学生と共に中国語を学び、香港中文大学の学生たちとインターン型プログラムに取り組むことができるからです。私はこの研修を実りのあるものにしたいと強く思い、以下の3つの目標を立てました。1つ目は中国語のレベルアップ、2つ目は現地の人との積極的な交流、3つ目は異文化の体感です。本研修は私にとって初の海外経験であるため、日本では頻繁にできない経験がしたいと考え、これら3つの目標を立てました。本報告では、研修の目標の達成度、研修で学んだこととそれらをふまえて今後取り組みたいことについて述べたいと思います。

初めに、研修に参加するにあたって設定した目標がどの程度達成できたかについてです。1つ目の中国語のレベルアップについては、今まで知らなかった文法や言い回しを覚えたり、先生が中国語でしてくださる説明を聞き続けたりしたため、文法力やリスニング力は研修参加前よりもつuitaと思います。しかし本研修では、中国語のレベルアップをはかったことよりも、中国語を学ぶ楽しさや、研修終了後も勉強を続けることの重要性に気付いた面の方が大きかった、というのが私の率直な感想です。中国語を本当にレベルアップさせられるかどうかは、このことをふまえて今後どのような勉強をするかどうかによると言えるでしょう。

2つ目の現地の人との積極的な交流については、それなりに達成できたと思います。しかし、私は英会話があまり得意ではなく、仲良くなった学生の多くは日本語を話せる人でした。英語でコミュニケーションをとることが私の中での理想ではあったのですが、それを達成できたとは言いがたいと思います。また、現地の学生との会話の内容は日本の学生との会話のそれと大して違いのないものでしたが、生活や考え方など、香港と日本の違いについて話すことができたなら、より深い交流ができたのかもしれませんが。

3つ目の異文化の体感については、表面的な体験はできたと思います。日本にはない乗り物に乗り、香港の伝統的な食事をするなど、日本では簡単にできない経験をすることはできました。しかし、日本人だけではどうしても観光客向けの場所に行きがちでした。1か月という短い期間で異文化を感じるには、やはり現地の人との交流が一番の近道だと思いました。

次に、香港と日本に対する認識など研修を通じて変わったことや、香港で学んだことなどについて述べたいと思います。まずは、香港の人々と接して、自分の思い込みや常識が覆されたことについてです。例えば、香港の学生は日本ではよく聞かれる「本音と建て前」という概念になじみがないと言っていました。同じアジア人であり、日本人と同じような会話をするのができても、国が違えば考え方が大きく異なることに気付かされました。次に、香港の学生と英語で話をして、自分と彼らの英語力には大きな差があることを思い知りました。小さい頃から英語を習っている香港人の英語力には到底及ばないことを自覚し、彼らと対等に渡り合うために日々勉強を怠ってはいけないということを今回の研修で痛感しました。

個別報告

最後に、今後の目標や取り組みたいことについて述べたいと思います。私は本研修で、語学を学び続けることの重要性を知りました。研修中にできた友達と次に会った時に、今回よりも英語や中国語を多く使ってコミュニケーションをとることを目標に、勉強を続けたいと思います。また、インターン型プログラムを通して、自分がビジネスに関する知識や世界情勢についていかに無知であるかを感じました。これらのような今まであまり関心を払っていなかったことにも、メディアなどを通じて積極的にふれていきたいです。

香港研修を振り返って

文責: 齊藤歩

前の春休みにこの研修を見つけたとき、一番魅力に感じたのは3週間の中国語プログラムでした。私は1年次に第二外国語として中国語を選択しており、春休み中も検定を受けたりして自分なりに勉強を続け、中国語の語学力を高めたいと思っていました。さらに、4年前に1週間ほど香港に滞在したこともあり、香港での生活に対する安心感もありました。この研修の説明会を受けた後は最後の1週間に行われるインターン型フィールドワークにも興味を持ち、英語でコミュニケーションをとる力、仲間と協力する力、自分で考え、計画を立てて問題を解決する力など、将来的にきっと役に立つ力を養えるこのプログラムに胸を高鳴らせていました。

2つのプログラムを1ヶ月で行う盛りだくさんのこの研修に対して私が立てた目標は“圧倒的成長”でした。中国語の語学力向上はもちろん、問題解決に向けて自分で考える力、積極的に自分の意見を発信する力、相手の意見を理解する力、そのための英語力、全てを全力で伸ばしたいと思いました。今研修を終えて振り返ってみても、自分のことなので本当に“圧倒的成長”を遂げられたかどうかはわかりません。しかし、全力で取り組んだということは自信を持てています。

まず中国語プログラムに関しては、授業に積極的に参加した上で毎日の自習を欠かさず、3週間集中して中国語に取り組みました。自分の学習不足により日本で習ったことと同じ部分までしか学べないクラスに入ることになったことは悔しかったですが、このレベルのクラスだったからこそ日本ではあまり練習できなかったスピーキングに積極的に取り組めたとと思います。文法や単語を知っているだけでなく、片言ながらも使えるようになったことは大きな成長だと思っています。香港は主に広東語を使っているのですが、香港の学生は北京語を習っているのでも、北京語で話すことで私の中国語学習に協力してくれました。また、一緒に研修に参加した友人たちとも積極的に中国語で会話していました。

インターン型フィールドワークでも、香港の学生とコミュニケーションをとるために英語を使っていたので語学力の面で成長できたと思います。また、香港の学生は計画のアウトラインを立てたり、発表用のスライドを作ったりするスピードが非常に早く、このような活動に慣れていることが伺えました。この仕事の早さには本当に感心させられました。

今後もこの3週間で身につけた中国語の語学力をさらに伸ばすために積極的に勉強していきたいと思っています。具体的には、一橋での中国語中級の授業を後期も履修し、HSKを受験したり、中国系のイベントに参加したりして中国語を使う機会を設けていきたいと思っています。また、今回一緒にインターンに取り組んだ学生と将来仕事をするようになったとき、仕事の早さで負けたくないので、日本で行われるインターンなどに参加してこのような活動に慣れていきたいです。

個別報告

香港研修で得たこと

文責:久本麻央

私がこの研修に参加しようと思った主な理由は、中国という国を実際に肌で感じたいと思ったからです。高校時代にアメリカで知り合った中国人の友人から旧正月や食文化のことなど中国について多くを教えてもらい、中国は「一度も訪れたことはない、でもいつか行ってみたい憧れの国」となっていました。香港はむろん人々の、日本に対する意識や社会的自由度の面で中国本土と異なりますが、私は比較文化、語学力向上、新しいことに挑戦していく、一生の友達を作る、という4つの目標を立てることで、香港と日本、また住んでいたアメリカと比較したいと思いました。

一つ目の目標の比較文化においては、香港では外国からさまざまな商品が市場で売られており、新しいものをどんどん受け入れる土壌が整っていると感じました。街中のほとんどのお店に韓国、日本、ヨーロッパなどの世界各国の製品が売られており、アメリカ市場向けに味が少し変えられていたり、製品のパッケージが英語で売られていたりした食品と比べ、そのような変化もなく日本製品がそのまま売られていることに私は驚きました。また、一カ月の滞在を経て、香港人は日本人よりも困っている他者に優しいと感じました。周りが動かなければ自分からはなかなか行動しないといわれている日本人に比べ、香港人は他人が困っているとすぐに手を差し伸べお互いを助け合っている印象を受けました。他人を受け入れるという点で日本人よりも香港人の方が寛大だと思います。

語学力向上に関しては、1つレベルを上げて望んだ語学研修で私は多くを学びました。1つ目には、語学力そのものの向上が見られたことです。三か月間しか中国語を学習しなかった私にとって、Level 1 Upper class では習ったことがない文法や単語の連続でしたが、復習を中心に教科書を何度も読み返すことで、自分の中に吸収していくことができたと思います。また、自分がいかに中国語のリスニングが不得意であるかを実感した点においてこれからの自分の課題が見えたので良かったと思っています。2つ目は、自分の能力より高いレベルに挑戦することがいかに大切かということです。このクラスを取り始めた当初、私は授業のスピードについていける自信が全くありませんでしたが、だんだんと授業に慣れ、自然と面白いと感じるようになることができました。何事も少し背伸びして自分より高いレベルで挑戦していくことで、いつの間にか気付かぬうちに自分がそのレベルに達することができると学んだのです。

三つ目の目標に関しては、今回の旅で私は多くの新しいことに挑戦をすることができました。1人で旺角(モンコック)に出歩き、屋台の“衛生的に悪そうな”食べ物を食べてみたり、調理された鳩の頭を食べてみたり、またインターンを海外の大学の学生と一緒に経験してみたりしました。新しいことへの挑戦は戸惑うばかりですが、その経験を得ることで、新たに知識や自分の興味のある分野を発見することができます。何事も恐れずに挑戦してみようと思うことで、目の前にあるチャンスを最大限に活かすことができるのだと改めて感じました。

個別報告

そして最も達成できたと言っているいいものが、友人を作るという目標です。私はインターンを経て、一生繋がることのできる友人たちに出会うことができたと思っています。インターンのチームは私含めず6人ほどで、同じプロジェクトを組んだのはそのうちの2人でした。1人はドイツからの留学生で、彼からは「人との接し方」を学びました。インターンの議題について、肯定的に他者の意見を受け入れ、うまく考えが纏まらない時に必ず助け舟を出してくれた彼と接していると、私は自分が受け入れられていると強く感じることができ、更に良いアイデアを捻り出そうという気持ちにさせられました。2人目は香港人の4年歳上の女性で、彼女からは、将来を考えるにおいて自分のやりたいことをやり続けることが最も大切だと教わりました。将来の進路としてやるべきことが見えず、心配と不安を抱く前に、自分の毎日の決断が将来に繋がることを意識して生活することで、自分がやりたいことが見えて来るのではないかと教えてくれたのです。

この研修を終えて最も感じたことは、何事も経験を積んで視野を広げて行くことが大事であるということです。自分とは全く異なるバックグラウンドを持つ仲間と過ごすことは、今まで思いもつかなかった考えに至ったり、相手と意見を共有したりと、自分の価値観を大きく広げることができます。また、今回、自分にはない経験と知識を他者は持っている実感することで、その他者への尊敬と共に悔しさも感じました。しかし、この悔しさをバネにして大学4年間をどのように過ごすか考えることが重要であり、この経験を次に活かすために、これからの大学生活において時間を無駄にせず、自分が何をすべきか考えながら過ごすことが重要だと思いました。最後に、この研修でお世話になった全ての方に、感謝の意を捧げたいと思います。

香港への短期研修に参加するにあたって幾つか目標を立てた

文責: 徳橋 和紀

まずは言語面。今回の研修は英語も中国語もどちらも必要とされるプログラムになっていた。現地での最初の3週間は香港中文大学に通って、中国語を学習し、最後の1週間のフィールドワークは現地学生とともに英語で行うのだ。そのためこの二言語それぞれに別々の目標を設定した。まず中国語に関しては“今後の中国語学習のための何らかのヒントを得る”ことを挙げた。私は一年生であるために、第二外国語としての中国語の学習は4月に始めたばかりであった。当然自己紹介もままならない段階で香港に行き、1ヶ月を終えて帰国した時に中国語を流暢に話せるようになるとは思えなかったのだ。そのため今回の研修をきっかけとしてその後の中国語の学習に生きてくる刺激を、モチベーションを、端緒を得ようと考えた。英語学習に関する目標は“日常英語からビジネス英語への橋渡しのきっかけにする”であった。高校時代にオーストラリアでの1年間の留学を経験していたために一定の日常英語には不自由していなかったが、果たしてそれは社会に出て、会社などで使えるものであるかは疑問であった。今回のフィールドワークは題材が日常会話のレベルを超越しているのに加えて、最終日には実際の社会人であり課題の出題者である企業の方に向けてフォーマルなプレゼンでの報告会が予定されていたので、現時点での自分の英語力を図るにはこの上ない機会だった。

次に文化面。アジアの国に行くのは今回の香港研修が初めてだったので“日本でないアジアの国を肌で感じる”ことを目標に設定した。1ヶ月という極めて短い期間ではあるが、実際に現地で生活してみないと知ることができない香港の様々な面があると思ったので、常に周りに気を配りながら、違いに敏感に生活したいと思った。以下で上記の三つの目標それぞれに対する自己評価をしたい。

1. 中国語学習面

香港での中国語学習、特に最初の3週間の香港中文大学でのプログラムは私にとって過酷なものであった。全体で80人ほどの参加者がいた中文大学のプログラムでは参加者一人一人の中国語のレベル別でクラス分けがされ、それぞれのレベルにあった授業が展開された。3ヶ月ちよつとの期間しか中国語を学んでいない私は当初一番基礎的な授業が展開されるクラスに割り振られていた。そのコースは本来中国語未修者や漢字文化圏外の国からの学生を想定しているものであったため、多少中国語を学習した私にとっては物足りないと感じ、1つ上級のクラスへと変更してもらった。そのクラスでは生徒のほとんどは一年半程度中国語を学習した大学2年生で構成されており、授業の進度も内容もそれに準じたレベルであったために、私は毎回の授業に付いていくのに精一杯であった。授業後、寮に戻るとその日の復習、そして次の日の予習に自分の時間のほとんどを奪われる毎日は正直大変苦しいものであった。逃げ出したいと思った時期もあったし、これほどまでに自分の時間を拘束される現状を嘆くこともあった。しかし、そのような3週間の研修をやり通したことは自分の自信になったし、苦勞して中国語を勉強したことは今後の中国語学習のモチベーションになっている。その点では事前の目標を十分に達成できたと思っている。

個別報告

2. 英語学習面

中国語の研修を終えた後の1週間のフィールドワークは既述の通り英語で行われた。出題者である企業からの説明も英語、グループ内での議論も英語である。マーケティングや経営戦略の議論も英語で行う中で、自分の英語が通用する部分と通用しない部分を多少は把握できたと思う。具体的に言うならば、経営やマーケティングといった専門的な議論をした際に自分の言いたいことを端的に表せる専門的な単語を知らなくても、卑近な例を挙げながら説明をすることでコミュニケーションは可能であることを知った。それと同時に、専門的な単語を知識として得ることで、自分の伝えたいことを語弊なく、遠回りをしないで伝達できることも感じて、社会人になる際にはそれが必要であるとも思った。こうしたことを体感できたのは自分の財産であり、目標は十分に達成したと考える。

3. 文化考察面

香港で生活する中で様々なことを感じ、考えた。また、実際に香港で生活している人からもたくさん話を聞くこともできた。しかし、今回の研修で受けた香港に対する印象は1ヶ月という短い期間で構築されたものであることに注意したい。1ヶ月という期間はその土地の本当の姿を感じ取るためには短すぎると私は考える。私は今回の研修で香港を“来客”として眺めたのだと思うのだ。また同様に私が今回巡り合った香港人の知り合いの教育水準は非常に限られたものであったことも見落としてはいけないだろう。つまり、今回私が持ったイメージは香港の数あるうちの一つの面として捉えるべきであり、それによって香港全体の印象を決定づけてしまうのは早急であるのだ。その点に留意しながら、この先に香港の文化に触れながらその理解を進めていきたいと思う。

以上、私が出発前に立てた目標に沿って今回の研修を回顧したが、これ以外にも様々な貴重な経験をすることができた。香港で弁護士として実務を全うしておられる先生や香港和僑会の方々など実際に社会で活躍されている先輩方の話を聞く減多にない機会を得たことを始め、本当に充実した1ヶ月であった。

“留学に行くと視野が広がる”というのは月並みな感想ではあるが、香港での研修で私は将来の進路における視野が広がり、今まで持ち合わせていなかった選択肢を得ることができたのだ。そしてそれはそれだけで今回の研修に参加してよかったと思うに足る根拠になりうると私は考えている。

編集後記

【吉田亜未】 4週間という短い期間でしたが、毎日がとても充実していて、非常に貴重な経験を沢山することができました。この研修で学んだことを、今後活かして行きたいと思います。

【石毛奈津美】 報告書を作成する中で、一か月間の研修を通じて体験し得られたことを振り返り、整理することが出来ました。夏学期から長い間、中身の濃い時間を過ごせました。ありがとうございました。

【伊東美帆】 私が香港で充実した日々を過ごし、無事に帰って来られたのは一緒に研修に参加した皆さんのおかげです。報告書を執筆するにあたって研修での日々を思い出す度に感謝の気持ちが溢れてきます。本当にありがとうございました。

【神谷有紀】 報告書制作の過程で香港で経験した様々な体験を思い出し、今回この研修に参加して本当に良かったと改めて思いました。この研修を通して多くの出会いに恵まれ、サポートしてくれた方々に大変感謝しています。ありがとうございました。

【齊藤歩】 途中で編集過程の報告書資料を開けなくなるなどのトラブルもあり、他の仲間には色々ご迷惑をおかけしましたが、完成できてよかったです。ありがとうございました。

【萩原理沙】 香港での日々は、途中辛い事や戸惑うこともありましたが、全体として楽しく充実していました。偏に支えてくださった周りの方々のおかげです。ありがとうございました。

【松井咲樹】 たくさんの刺激が得られた1か月だったと執筆しながら改めて思いました。真面目に過ごせば行って損はないです！！この報告書を見て参加したいと思っていただけでも幸いです。

【徳橋和紀】 香港での日々を思い返すと、楽しかった思い出や素敵な出会いが浮かんで消え、懐かしさと切なさで狂おしくなります。報告書を読んでもくださった皆さんが同じく香港で掛け替えのない経験を得られますことをささやかに願っております。

【久本麻央】 この報告書を作成する過程で、香港で得た友人や知識、または学んだことなど多くを振り返ることができた。最後に、この旅を素晴らしいものにしてくださった方々に感謝をして、終わりたいと思う。

全学プログラム

主な対象者	プログラム名	奨学金等	条件等
学部3-4年生 大学院生	一橋大学海外派遣留学制度 (交換留学制度)	大学基金等 (給付型)	<ul style="list-style-type: none"> ● 本学協定校への交換留学 (留学期間1年以内) ● 派遣先大学毎に異なる語学要件等有り ● 募集人数130人程度 ● 単位互換認定可
学部3-4年生	グローバルリーダー育成海外留学制度	大学基金 (給付型)	<ul style="list-style-type: none"> ● アメリカ・ハーバード大学 ● 英国・オックスフォード大学, ケンブリッジ大学, LSE ● 派遣留学期間1年以内 ● 派遣先大学毎に異なる語学要件等あり ● 募集人数4人程度 ● 単位互換認定可
大学院生	一橋大学基金大学院生海外留学奨学金制度	大学基金 (給付型)	<ul style="list-style-type: none"> ● 奨学金支援期間1年以内 ● 募集人数4人程度 ● 月額の滞在費に加え、別途研究活動費を支援 ● 留学中は休学することも可能
学部2-4年生	一橋大学サマースクール等留学制度	大学基金等 (給付型) (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ● アメリカ・ペンシルヴァニア大学 ● アメリカ・スタンフォード大学 ● アメリカ・カリフォルニア大学ロサンゼルス校 ● アメリカ・カリフォルニア大学アーヴァイン校 ● アメリカ・カリフォルニア大学デーヴィス校 ● 英国・LSE ● フランス・パリ政治学院 ● スペイン・ESADE Business School ● 中国・北京大学 ● シンガポール・シンガポール経営大学 ● 留学期間1~2ヶ月程度 ● 派遣先大学毎に異なる語学要件等あり ● 単位互換認定可
学部生	海外語学研修 (英語)	大学基金等 (給付型)	<ul style="list-style-type: none"> ● アメリカ・スタンフォード大学 ● アメリカ・カリフォルニア大学デーヴィス校 ● アメリカ・カリフォルニア大学アーヴァイン校 ● アメリカ・ペンシルヴァニア大学 ● アメリカ・ボストン大学 ● アメリカ・テキサス大学オースティン校 ● 英国・グラスゴー大学 ● 英国・エセックス大学 ● 英国・サセックス大学 ● オーストラリア・ニューサウスウェールズ大学 ● オーストラリア・シドニー大学 ● オーストラリア・クイーンズランド大学 ● オーストラリア・モナシュ大学 ● 留学期間1ヶ月以内 (夏季又は春季授業休業期間中) ● 5-6単位認定 (派遣先大学により異なる) ● 派遣先大学毎に異なる語学要件等有り
学部生	ドイツ語短期海外語学研修	大学基金等 (給付型)	<ul style="list-style-type: none"> ● ドイツ・アーヘン語学アカデミー ● 留学期間1ヶ月以内 (夏季授業休業期間中) ● 6単位認定 ● 大学院生も参加可能だが、単位認定不可
	短期海外研修 (夏期・香港中文大学)		<ul style="list-style-type: none"> ● 中国・香港中文大学 ● 留学期間1ヶ月程度 (夏季授業休業期間中) ● 6単位認定、大学院生は単位認定不可 ● 語学研修3週間+合同インターン型教育プログラム1週間 ● TOEFL 500 (ITP)以上が望ましい
	短期海外研修 (夏期・モナシュ大学・グローバル・プロフェッショナル・プログラム)		<ul style="list-style-type: none"> ● オーストラリア・モナシュ大学 ● 留学期間1か月程度 (夏季授業休業期間中) ● 6単位認定 ● TOEFL71 (iBT), IELTS5.5程度を有すること ● TOEFL530 (ITP), TOEIC700も可能
	短期海外研修 (春期・スペイン企業派遣)		<ul style="list-style-type: none"> ● スペイン・Berget社 ● 留学期間1ヶ月程度 (春季授業休業期間中) ● 7単位認定 ● TOEFL79 (iBT), 550 (PBT), TOEIC730, IELTS6.5程度 (スペイン語能力 (DELE中級以上) 保持者は優遇)
	短期海外研修 (春期・シンガポール経営大学)		<ul style="list-style-type: none"> ● シンガポール・シンガポール経営大学 ● 留学期間2週間程度 (春季授業休業期間中) ● 3単位認定 ● TOEFL525 (ITP)以上が望ましい

経済学部・法学部・社会学部グローバル・リーダーズ・プログラム

主な対象者	プログラム名	奨学金等	条件等
学部生	経済学部短期海外調査 (アジア新興国)	大学基金等 (給付型)	<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度は中国を予定 ● 留学期間10日間程度 (夏季授業休業期間中) ● 春・夏学期基礎ゼミナールおよび秋・冬学期基礎ゼミナールとセットで履修し、8単位認定
	経済学部短期海外調査 (EU圏)		<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度はフランス、ベルギーを予定 ● 留学期間11日間程度 (冬季授業休業期間中) ● 春・夏学期基礎ゼミナールとセットで履修し、6単位認定
学部3-4年生 大学院生	法学部GLP国際セミナー (ベルギー)	大学基金等 (給付型) (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度はソウル大学・ルーヴァンカトリック大学を予定 ● 留学期間2週間程度 (夏季授業休業期間中) ● 2単位認定 ● 全学部を対象とする
社会学部生を優先	社会学部海外短期調査 (フィールドワーク)	大学基金等 (給付型) (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ● 留学先はフィリピンもしくはマレーシアを予定 (調整中) ● 留学期間は1週間程度 (集中講義期間) を予定 ● 4単位認定 ● 社会学部生を優先。ただし、参加人員に余裕がある場合、全学部生に解放予定

日本学生支援機構 (JASSO)

主な対象者	プログラム名	奨学金等	条件等
学部生 大学院生	官民協働海外留学支援制度 ～トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム～	給付型	<ul style="list-style-type: none"> ●日本国籍を有する者又は日本永住者 ●留学終了後、日本の在籍大学で学業を継続又は学位を取得する学生 ●月額滞費に加え、授業料及び留学準備金を支援 ●家計基準あり
大学院生	海外留学支援制度（大学院学位取得型）	給付型	<ul style="list-style-type: none"> ●外国の大学院での修士又は博士の学位を取得する者 ●支援期間は修士2年以内、博士課程は原則3年以内 ●月額の滞費に加え、別途授業料を支援 ●その他、学業成績要件、語学要件、年齢制限等あり
学部生 大学院生	第二種奨学金（海外）	有利子貸与型	<ul style="list-style-type: none"> ●留学年度の前年度に、国内の大学等を卒業（修了）見込みであり、進学（入学もしくは編入の者）をする者 ●申込手続き完了時において、国内の大学等を卒業（修了）後3年以内の者 ●貸与月額（選択制） 大学：3万円、5万円、8万円、10万円、12万円 大学院：5万円、8万円、10万円、13万円、15万円 ●家計基準あり
学部生 大学院生	第二種奨学金（短期留学）	有利子貸与型	<ul style="list-style-type: none"> ●国内の大学に在籍中に、海外の大学・大学院・短期大学に3ヶ月以上1年以内の短期留学をする者 ●貸与月額（選択制） 大学：3万円、5万円、8万円、10万円、12万円 大学院：5万円、8万円、10万円、13万円、15万円 ●家計基準あり

※日本学生支援機構(JASSO)の海外留学奨学金パンフレットにも、奨学金情報が網羅されています。日本学生支援機構 海外留学のための奨学金 http://www.jasso.go.jp/study_a/scholarships.html

一橋大学基金海外留学支援奨学金等

主な対象者	プログラム名	奨学金等	条件等
学部生	一橋大学海外留学奨学金	給付型	<ul style="list-style-type: none"> ●如水会・明治産業株式会社・明産株式会社の寄付による ●一橋大学海外派遣留学制度による派遣留学生（学部生のみ）全員への奨学金支援 ●留学準備金及び滞費の支援
学部生	榊原忠幸基金海外留学支援資金	給付型	<ul style="list-style-type: none"> ●故榊原忠幸氏の御命室の寄付による ●学業優秀で、かつ経済的支援が必要な者 ●海外語学研修(英語)の派遣先大学の参加費用・滞費等の支援 ●支援人数年間10人程度
学部生	堀海外留学支援資金	給付型	<ul style="list-style-type: none"> ●堀誠氏の寄付による ●愛知県内の高等学校を卒業した者で、通年（1年間）に渡り交換留学を行う者 ●留学に必要な経費の支援 ●支援人数年間5人程度

その他の民間財団等の海外留学奨学金

<http://international.hit-u.ac.jp/jp/abroad/scholarship/index.php>

民間財団等が募集を行う海外留学のための奨学金があります。奨学金によっては、学内選考が必要な場合がありますが、直接応募できるものが多数です。民間財団等の奨学金のうち、大学に公募情報が届いたものについてはこのページおよび国際研究館1階国際課前の掲示板にも掲載しています。

関係URL等

プログラム	URL
一橋大学海外派遣・グローバルリーダー育成留学制度	http://international.hit-u.ac.jp/jp/abroad/haken/index.html
一橋大学基金大学院生海外留学奨学金制度	http://international.hit-u.ac.jp/jp/abroad/grad/index.html
一橋大学サマースクール等留学制度	http://www.hit-u.ac.jp/kyomu/info/news.html
海外語学研修（英語）	http://www.hit-u.ac.jp/kyomu/info/news.html
ドイツ語短期海外語学研修	https://sites.google.com/site/gogakukenshu/
短期海外研修（スペイン、香港、シンガポール、モナシュ）	http://international.hit-u.ac.jp/jp/courses/index.html
経済学部 短期海外調査	http://www4.econ.hit-u.ac.jp/glp/?page_id=7
法学部 グローバル・リーダーズ・プログラム	http://www.law.hit-u.ac.jp/faculty/glp
経済学部 グローバル・リーダーズ・プログラム	http://www4.econ.hit-u.ac.jp/glp/
日本学生支援機構等の奨学金について	http://international.hit-u.ac.jp/jp/abroad/jasso/index.html

お問い合わせ先

国際教育センター留学生・海外留学相談室 URL: <http://international.hit-u.ac.jp/jp/cge/advising/>
学務部国際課 TEL: 042-580-8764 / E-mail: int-gs.g@dm.hit-u.ac.jp

教務課グローバルスキルズチーム（海外語学研修（英語）及び一橋大学サマースクール等留学制度）
TEL: 042-580-8175 / E-mail: g-skills.g@dm.hit-u.ac.jp

※上記のプログラムは、平成29年3月末日時点の予定であり、今後予告なく変更・追加等が生じる場合があります。